

令和元年度 土木学会 四国支部「土木の日」記念行事 報告

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 15:00~16:35
会場 : サポートホール 6 1 会議室
(高松シンボルタワー内 ホール棟 6 階)
参加者 : 85 名



支部長挨拶

- 15:00~15:05 挨拶
土木学会四国支部長 小林 稔

- 15:05~15:30 土木学会推奨土木遺産 認定授与式
令和元年度土木学会選奨土木遺産として、高知県四万十市の麻生堰（あそうぜき）が認定されました。認定証の授与に先立ち、四国支部選奨土木遺産選考委員会の小野薫委員長より、今回認定された「麻生堰」の土木遺産について、特徴・価値などを説明いただきました。



その後、小林支部長より、四万十市副市長の金納聡志様に認定書が授与されました。金納副市長より、御礼のご挨拶をいただき、認定書授与式は終了しました。

なお、副賞の銘板は、制作者より直接、四万十市さまへ送付されます。

認定遺産：麻生堰（あそうぜき）／高知県四万十市麻生
竣工年 : 江戸時代前期（1630~1630 年頃）

- 野中兼山によって作られた曲線・斜め堰
- 建設当時の姿のまま現役で活用されている
貴重な土木遺産



尾野委員長による説明



記念撮影



金納副市長のご挨拶

● 15:35～16:35 特別講演

いまそこにある「巨大災害の危機」南海トラフ地震のリスク
～間違いなくくる「四国難」災害～

公益社団法人土木学会 専務理事 塚田幸広氏

講演概要

近年、我が国では、自然災害が頻発化・激甚化しています。講演では、最初に「近年の頻発化・激甚化する災害」の概要とこれらの災害時の土木学会の対応について、お話をいただきました。

続いて、昨年、土木学会が作成した『「国難」をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書』の概要についての説明がありました。引きつづき、南海トラフ地震が、四国の域内総生産に及ぼす影響について、無対策の場合と様々な対策を行った場合についての比較をお話いただきました。報告書のまとめとして、レジリエンス対策を着実に進めるための方策についてご教示いただきました。

最後に、東日本大震災、北海道胆振東部地震の前後での夜の衛星写真の比較を示されました。災害がどれほど私たちの生活を損なうものか、この比較はたいへんにインパクトのある恐ろしいほどのプレゼンテーションでした。

会場では、盛んにメモを取る方や、頷きながら講演に聞き入る方がおられました。



土木学会専務理事 塚田幸広氏 特別講演

講演者略歴

1984年に北海道大学工学部を卒業され、同年に建設省（現国土交通省）に入省、2008年国土交通省近畿地方整備局企画部長、2011年国土技術政策総合研究所 道路研究部長、2014年(独)土木研究所研究調整監、2015年より(公社)土木学会専務理事に就任。

この間、「ITを活用した高速道路の交通マネジメントに関する実証的研究」で、筑波大学より、博士号を取得。

また、土木学会の「レジリエンス確保に関する技術検討委員会」では、事務局として「国難」をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書のとりまとめに尽力された。

- 9:00～17:00 「四国の土木コレクション&土木遺産パネル展」

場所：高松サンポートホール デックスギャラリー

四国の土木コレクション

土木界が保有する歴史的に価値の高い図面や写真など普段目にする事ができない各種コレクションの内、四国の10枚を展示

徳島県・・・吉野川橋、穴吹橋、吉野川第一期改修工事

香川県・・・豊稔池堰堤

愛媛県・・・長浜大橋、道後温泉本館周辺広場

高知県・・・旭浄水場、第二領地橋梁（2枚）、安田川 馬路村農協前水制

四国の土木遺産

人間の英知を注いで建設した道路・橋・トンネルなどの土木構造物の中で歴史的かつ技術・文化的価値を持つ四国地方の土木施設（14箇所）を紹介



展示状況



四国の土木コレクション



四国の土木遺産